

1-7		主題	認知症対応型通所介護における個別ケアへの取り組み	
認知症対応型通所 個別ケア（活動）		副題	利用者の代弁者としてどう支えるか ——「キャラクターシート」を通しての気づき	
研究期間	15ヶ月	事業所	府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター	
発表者：木村 友喜子（きむら ゆきこ）			アドバイザー：今福 崇	
共同研究者：浅上 勝敏				
電 話	042-369-0080	メール	asahi@tama-dhk.or.jp	
FAX	042-365-4683	URL		

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	あさひ苑は、府中市の地域包括支援センター、特養の機能を有するほか①入所・滞在サービス②通所サービス（デイサービス・地域デイサービス）③訪問サービス等を提供している。うちデイサービスは併設型として、H6 年から、通所介護（定員 40 名）、認知症対応型通所介護（定員 10 名）のサービスを提供しており、現在約 180 名の在籍がある。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》 ① 従来、認知症対応型通所活動として、週替わりのプログラム（ちぎり絵、習字、ゲーム）をローテーションで行っていたが、個人の能力差が大きく、プログラムに取り組みない利用者がいるという状態が度々あり、共同作業や集団活動のいきづまりを感じるがあった。どうしたら利用者がいきいきとした表情で過ごす事が出来るのか、が大きな課題であった。 ② 「不穏になったらマンツーマン」という対応でやり過ごす状況があり、それに対して、「それだけでいいのだろうか。不穏状態を減らす方策はないだろうか。」という問題提起があり、そのためには①への取り組みと同時に、初心に立ち返って、職員が認知症を正しく理解しているかを見直すことが必要、という思いに至った。	《研究の目標と期待する成果》 ① 「利用者のプラスの側面に着目すること、利用者の言葉に出来ない思いを代弁する事が、認知症ケアに必要である」という考え方に基づいて、独自に「キャラクターシート」を作成した。これを利用者理解のための一助として、利用者によりいきいきとした活動を提供することを目指した。また、H22年・23年を「チャレンジ年」とし、従来の活動メニューにこだわらず、どんどん提案し、とにかく試してみようという方針を決め、実行した。 ② 担当に限らず、利用者に関わるすべての職員が、認知症対応型通所利用者に対する共通の認識をもって対応できることを目指して「部署内認知症講習会」に取り組んだ。
--	--

《具体的な取り組みの内容》

①キャラクターシートの取り組み

H22.4～8 利用者に関する情報提供呼びかけ

6 担当学会にて、キャラクターシートに盛り込む内容の検討
キャラクターシート（第1案）作成および検討

7 担当学会にて第1案修正
第2案作成

8 第2案一部手直しの上、書式確定、記入方法確認

9～ キャラクターシート作成開始
毎月のカンファレンスにて検討更新（登録24名作成済み）

◎上記の取り組みを進める中で、活動については、従来のローテーション方式を改め、週ごとのくくりを緩めて共同作業と並行して個別作業を進める方法をとった。

②部署内認知症講習会

H22.6 第1回講習会実施（参加 名）
「認知症とは何か」

8 第2回講習会実施（参加 名）
「ロールプレイを通して、認知症の人に寄り添った良い対応のしかたを考える」

H23.2 第3回講習会実施（参加 名）
「ワークを通して、人の良い面に注目する見方を鍛える」

《取り組みの結果と評価》

①について

「キャラクターシート」の作成作業を通して、例えば、スケッチ、縫い物、落書き、生花等今までにない活動を掘り起こせた。また、本人の「できる力」をうまく引き出せたと感じられる場面が積み重なることで、利用者のみならず、職員も自信を得ることが出来たのは想定外の発見だった。現在、活動は共同作業と個別作業を組み合わせ、よりフレキシブルに行っている。作品完成が全面に出ていた昨年よりは、より個別の状況に応じた取り組みができていていると考える。

②について

認知症に対する取り組みの基本姿勢を意識化し、共有する手がかりになった。また、パート職員も含めほとんどの職員が出席できるようにしたため全職員で取り組むという姿勢を示すことができた。

《まとめ》

キャラクターシートの作成や講習会を通して、日々自分が利用者をどう見ているかを再確認することができ、より具体的な取り組みへと結びつける一助になった。また、上手くいった事例は職員の動機付けになることが分かった。

《参考文献》

- ・「2005.8 版いつでもネットセンター方式利用ガイド」認知症介護研究・研修東京センター
- ・「痴呆老人」は何を見ているか
新潮新書 大井 玄

《提案と発信》

私たちは、「認知症対応型通所の専門性は、自らの力で人とのつながりを持つことが出来なくなった利用者の代弁者として働き、つながりの回復に手を添えることにあ

【メモ欄】